

昭和51年度 和歌山県名匠

【人形づくり】

た なか しょう すけ
田 中 正 助

【現住所】御坊市

【生 年】明治40年

職 歴

農業のかたわら祖父田中庄助、父田中豊太郎氏から受け継いだ御坊天神、鯛車たいぐるまなどをつくり続けて60年、数少ない伝統ある郷土玩具を残してきた。

業績の概要

祖父庄助氏が大阪の張子はりこ人形の技法を取り入れ、御坊天神、夫妻だるま、首振り虎、鯛などを考案して以来、三代にわたりその技法を伝承してきた。

父豊太郎氏時代には御坊市無形文化財に指定されていた。

製法には張子のほかひき粉、土、糊をこね合せてつくる練ものを考案し、御坊天神、三番叟さんばんそう、俵持ち、鯛えびす、鯛たい狎ちん、虎加藤とらかとうの6種類があるが、いずれも顔の表情が豊かで目に特長があり、原色鮮やかな色彩に特色がある。

御坊地方では昔から子供が生まれると初節句祝いの返礼として、男児には天神、女兒には立雛たちひなを贈る風習があったが、今ではその風習も殆んどなく、愛好家や土産品として全国各地で愛好されている。